

# 令和3年度 学校評価における自己評価について（報告）

認定こども園 鳥取第二幼稚園

## 1. 学校の教育目標

「生きる力があふれる子ども」の育成

～明るく・やさしく・たくましく～

- ・自ら目標を持ってたくましく活動する子ども
- ・友達の気持ちを思いやり、協力しあって遊べる子ども
- ・素直に感動する心を持ち、感動を想像豊かに表現できる子ども
- ・豊かな生活経験の中から、物事を知的に理解し判断できる子ども
- ・豊かな感性を持ち、生きる力を身に付けた子ども

## 2. 本年度に定めた重点的に取組みことが必要な目標や、計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

◆今年度の研究テーマ 「主体性のある子どもを育てる遊びや生活を考える」

- ・学年のテーマを設定し、研究テーマにそった環境作り、保育教諭の援助を考えていく。  
(0歳児) せんせい だいすき! (1歳児) おもしろいこと みつけた!!  
(2歳児) できると うれしいね (年少児) わくわく! ときどき! やってみよう  
(年中児) ぼくも わたしも やってみたい  
(年長児) 一歩前に☆Let's Start!! (預かり保育) みんな なかよし!

○教育の重点

- ・特色ある教育（音楽教育・・・リトミック活動、マーチング、なかよしわらべうた）
- ・健康な体づくり（RUNRUNタイム、かみかみタイム、食育活動）
- ・異年齢交流、地域交流

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理由
(1) 人権保育	A	・集団生活の場で一人一人が自分らしさを発揮し、仲間と共に育ち合うことのできる学級、園経営を目指した。保護者アンケートでも「園はお子様を大切に、愛情と誠意をもって対応している」の項目に対して高い評価をいただいた。
(2) 指導の強化 (運動)	A	・幼児部の園児は隣接する高校の広いグラウンドを走る活動“RUNRUNタイム”を年間通して行った。特に年長児は、天気の良い日はほぼ毎日取り組んだ。乳児部の園児は、戸外やホール、屋上まで歩いて行き、のびのびと身体を動かして遊ぶ楽しさを感じている姿が見られる。 ・昨年度から始まった高校サッカー部のコーチによる「サッカー教室」の経験も深まり、他園との交流試合では、サッカーを楽しむ姿が見られ、体を動かして遊ぶ意欲が育っていると感じた。体力、持久力も育っている。

評価項目	結果	理由
(3) 特色教育(音楽)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 乳児部は手遊び、歌、ダンスなど、幼児部はリトミック、楽器遊び、歌など、日々音楽に親しめるよう、取り組んできた。積み重ねの成果を、「運動会」では0歳児から年中児まではダンス、年長児はマーチング、「音楽発表会」では、歌、合奏、ダンスを披露した。保護者の方は子どもの姿に感動され、成長を感じ、高い評価をいただいた。</li> <li>• 音楽活動に取り組むことにより、音楽的な成長だけではなく、最後まで頑張るなど気持ちの面や友達と一緒に取り組む協調性などの成長も見られ、保護者の方はその点についても評価をして下さっている。</li> </ul>
(4) 教育課程・指導	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 研究主題に対して学年のテーマを設定し、目指す子どもの姿を仮定し、取り組んできた。研究保育、研究会を行っていく中で、各年次の保育を次の年次につなげていくことの大切さを話し合い、乳児期における情緒の安定、信頼関係を基に、幼児期において自己肯定感をもって遊び、様々な力がつくよう、取り組む必要性を保育教諭で共通理解した。</li> </ul>
(5) 特別支援教育	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 担任、加配教諭、保護者、専門機関が連携を取り、個々の発達、支援の方向性など共通理解しながら、子どもと関わり、支援をしていくことができた。また、就学・進級にあたり、スムーズに新しい生活に慣れていくことができるよう、関係機関とつながりながら、進めていくことができた。</li> <li>• 会議の時などに、子ども達の様子について共通理解する機会を設け、全教職員が同じ気持ちで関わっていけるようにした。</li> </ul>
(6) 健康・安全管理	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 感染症対策をしながら生活することが定着してきて、様々な感染症が大きく広がることはなかった。子ども達の健康面について、より気かけながら、日々保育することができた。</li> <li>• 園に隣接する高校と合同で、年に一度避難訓練を行っている。今年度は、よりスムーズに高校と連携を取りながら、避難訓練を行うことができた。高校は災害時避難場所となっていることもあり、安心感が高まった。</li> <li>• 毎月の避難訓練、交通安全指導で子ども達の意識も高まっている。</li> </ul>

評価項目	結果	理由
(7) 子育て支援	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策のため、今年度も直接子どもの成長を見ていただく参観日などの機会が少なかった。HPや学年だより、送迎時などに子どもの様子を伝えたり、気になることなどがあれば随時相談にのったりすることを心掛けてきた。</li> <li>・未就園児対象の園開放も定期的に行うことが難しかった。感染症対策をしながら、新たに絵本の貸し出しを始めることはできたが、まだあまり周知されていない。</li> </ul>
(8) 組織運営・園運営	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児部と乳児部の保育、行事などの共通理解のために合同職員会を行っている。できるだけ多数の職員が集まり、共通理解が深まるように、時間の確保や参加職員、会議の方法などを考えながら行った。</li> <li>・よりよい職場環境となるよう、月1回「衛生委員会」を開き、問題点の共通理解、改善策の話し合いを行った。どうしても有休取得をしやすくなるのかも話し合い、環境作りを心掛けてきた。</li> </ul>
(9) 地域との連携	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館祭の作品展示など間接的な参加はできたが、感染症対策のため、地域の方と触れ合う行事はできなかった。</li> <li>・西中校区PWWの会、醇風校区幼保小連絡協議会などに参加し、地域の方、校区の校長先生、保育園園長先生などと情報交換やお互いの教育保育について共通理解できたことはよかった。</li> </ul>
(10) PTA 活動	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事のPTA活動は、感染症対策をしながら、できる範囲の活動を行った。以前のように。保護者の親睦が深まるまでには至っていない。</li> <li>・「親児の会」「つぐみの会（絵本の読み聞かせ）」「マミーズ（手芸サークル）」については、出来る時期に出来ることを園児のためにして下さった。</li> </ul>

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 感染症対策をしながら、子ども達にとって何が大事なのか、何をねらいとするのか、を念頭に置き、日々考えながら保育を行ってきた。制限が多い中でも、子ども達は環境と積極的に関わり、自己発揮し、意欲的に遊ぶ姿が見られ、様々な力がついたと思う。</li> <li>• 研究主題に対して各学年が設定した「めざす子どもの姿」を、年度当初に保護者へ文書配付し、年度末には成長した姿を文書でお知らせしている。文書については、昨年度は学年毎で作成したが、今年度はクラス毎に写真を多数入れ、その写真から読み取れる成長や遊びの様子等の解説を記入して配付した。子ども達の成長を感じてもらうことができた。</li> <li>• 1学期の研究会では、各クラスの「保育記録」を持ち寄り、物的人的環境を検証し、子どもが主体的に活動できる環境を確認した。日々の保育でも、週案を通してPDCAを行い、二学期以降は、一学期から積み上げてきた保育を基に研究保育を行い、保育教諭の資質向上を目指した研究会を行った。</li> </ul>

◎「3. 4」の評価結果

A	十分達成された。
B	達成されている。
C	取り組まれているが成果が十分ではない。
D	取り組みが不十分である。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
<p>組織運営・園運営 (園行事の運営について)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 感染症対策のため、保護者の方に子ども達の成長を見ていただく機会が少なくなっている。子どもの遊びが盛り上がり、成長を感じる遊びの場面を見たり、感じたりしてもらえよう機会を作っていきたい。</li> <li>• 保育教諭は日々の保育を通して、保育の課題や研究の取り組みについて共通理解を深め、保育の質の向上を心がけていく。研修の充実を図り、主体的に学ぶ姿勢と環境を整えていく。</li> <li>• 次年度は園務システムが導入される。保護者の方にとっては連絡方法がスムーズになるなど大きなメリットが見込め、教職員にとっては業務の効率化につながると思われる。スムーズな導入となるよう、しっかり準備を整えていきたい。</li> </ul>
<p>特色ある音楽教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 音楽教育は、歌唱指導・マーチング・リトミック・楽器指導など幅広く、指導力が必要である。研鑽を積み、「音楽は楽しい」という気持ちを子どもがもてるように取り組んでいく。</li> <li>• 乳児部においては、わらべうたなど動きや触れ合いを伴う歌を通して、音楽の心地よさを感じられる素地を作っていく。</li> </ul>